



いわきの子

〈学校教育目標〉「ふるさとに誇りをもち たくましく生き抜く 子どもの育成」

岩城小学校
学校便り
第35号
R4.9.13
文責：佐藤

各種訪問より

9月2日（金）は、教育庁中央教育事務所指導主事佐川透様、県立ゆり支援学校高橋直志様をお迎えし、特別支援学級実践研修を行いました。4年3組の国語の授業を職員も一緒に参観し、個に応じた授業作りについて学びました。研修会では、授業づくりの他に、自立を見通した支援の在り方についてご指導いただきました。



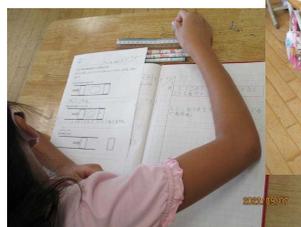
7日（水）は、教育庁中央教育事務所指導主事武田憲様、中央教育事務所由利出張所指導主事齊藤智行様をお迎えし、教科等訪問が行われました。2校時目に1・4年を除く学級の授業を参観していただき、特定授業として、3校時目に1年1組の学級活動、4校時目に4年1組の理科の授業を参観していただきました。



1年生の学級指導では「だれとでもなかよくするにはどうすればよいか」、友だちにどのような言葉かけが必要なのかについて話しました。実際にペアで優しい言葉かけをすることで、「ありがとう」「うれしい気持ちになった」という言葉が聞かれ、これから友だちに今まで以上にかわりをもっていきたいと思ったようでした。



4年生の理科では、「とじこめた空気は、おされるとどうなるのだろう」という課題を解決するために、これまでの体験や実物に触れることを通して根拠を基に予想を立てる時間でした。目に見えない空気の状態を図で表し、タブレットでスクリーンに映して紹介し合い、じっくり考えて取り組んでいました。ご指導いただいたことを基に、学び合うよさを体感できる授業を追究していきたいと思っています。



水泳学習の最後は 着衣水泳

9月6日（火）は最高のプール日和となり、低・中・高学年に分かれて、着衣水泳を行いました。着衣水泳の目的は次の通りです。①衣服を着て水に入った時の状態を体験することで、いざという時に慌てない心構えをもてるようにする。②余分な体力を使わない泳ぎ方を発見させる。③衣服の中で最も泳ぎの妨げになるものを知る。

学年によって活動に違いはありましたが、水着だけの時と衣服を身に付けた時の違いは歴然としていたようです。特に1・2年生は初めての経験に驚きや喜びを隠しきれず、笑顔いっぱいでした。学年が上がると、力を抜いて身体を浮かせたり、衣類に空気を閉じこめて浮いたり、ペットボトルの浮力を利用して浮いたりすることに挑戦してみました。泳ぎに自信があっても衣服を身に付けているときの体力の消耗は半端ではありません。万が一の事態に陥っても、この学習で学んだことを思い出してほしいと思います。「いのちを守る岩城小」です。

7月から始まった水泳学習でしたが、今年度はこれでおしまいです。洗濯等のご協力ありがとうございました。

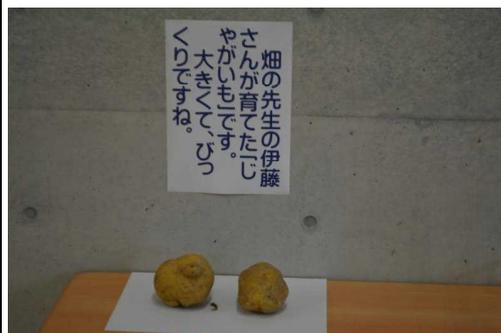


ありがとうございます



9月9日（金）、本校の学校運営協議会副会長の三浦鈴子様が来校され、道川婦人会からの寄付金5,000円をいただきました。また、三浦様からは軍手や布巾、タオルもいただきました。いただいたお物は子どもたちのために大事に使わせていただこうと思います。

皆様の善意に感謝致します。



玄関を入るとすぐに、大人の拳よりも大きなジャガイモが2個置いてあります。本校の“畑の先生”伊藤博行様が、子どもたちに見せてほしいとわざわざ学校へ届けてくださいました。種類の違いもあるのかもしれませんが、先生の作る野菜は流石ですね。

直接本物を見て、触って楽しませていただいています。